Crown English Communication I, pp. 4–5.

Lesson 1

When Words Won't Work

Words are words and pictures are pictures. Most of our (1)information (2)comes from words. But we are getting more and more information from little pictures. We call them "pictograms."

—1

Language is an important (3)means of communication. You exchange greetings. At school you listen to your teachers, have discussions, and enjoy talking with your classmates. At home you do your homework. For all of these activities you use language.

Yet, there is another important means of communication. Look around carefully, and you will notice lots of pictograms. Take a (4)look at the following. Even little kids may know them.

The one on the (5)left shows an emergency exit. The one in the middle shows a restroom. The one on the right shows an escalator.

Lesson 1 – Section 1

(1) information 名 **1a**, p. 998.

in·for·ma·tion /ìnfərméɪʃ(ə)n/ [→inform]
—名 (複 ～s /-z/) **1** Ⓤ **a** «…についての» 情報 (→intelligence **2**), 知識, 詳細; 見聞; 報告 «*about*, *on*, *concerning*, *as to*»; «…という» 知らせ (《略》 info) «*that* 節»; 通知[報告](すること) ▶provide [give] a lot of new *information* [×informations] たくさんの新しい情報を与える/***get*** [***obtain***, ***receive***] ***an*** important ***piece*** [bit, item] ***of information*** *about* the murder 殺人事件に関し1件の重要な情報を得る/***gather*** [***collect***] detailed ***information*** *about* [on, ×of] the terrorist テロリストの詳細な情報を収集する/***For more*** [***further***, additional] ***information***, please contact our office at 111-1111. 詳細につきましては電話番号111-1111にて当社までお問い合わせください/We have *information that* at least 20 passengers were killed in the accident. ≒ According to our *information*, at least.... ≒ 《かたく》 ***Our information is*** that.... 我々の情報ではその事故で少なくとも20名の乗客が死亡した模様です/misuse of personal *information* 個人情報の悪用/***for information only*** ご参考までに (! 単なる情報として提供する手紙・文書などのコピーに記す).

- 発信活動にも必要な名詞として，まずはⓊのロゴから不可算名詞であることを確認させる。教科書本文では most of our information（私たちのほとんどの情報）と量を表す表現だが，複数形にはならないことに注意させる。辞書の第 1 用例には×を付して[×informations]（informations としない，の意）と記されているので再確認させる。数える場合に使われる a piece of … information のコロケーションが第 2 用例になっているのでチェックさせるとよい。
- 「…についての情報」という場合に使われる前置詞が，二重山形かっこ« »に囲って示されているのでチェックさせる。特によく使われる about, on は太字になっているので注意させる。辞書の第 3 用例を参照させ，of は使わないことが×を付して示されているので併せて確認させる。

(2) come 動 成句 **come from A**, p. 375.

cóme from A* (1) 〈人が〉 A 〈場所〉の出身である, 生まれ[育ち]である; (旅行先などで) Aから来ている; A 〈ある種の家柄・階級・経歴〉の出である (! いずれも通例単純現在形で用い進行形にしない) ▶"***Where do you come from?***" "[(I'm from) Japan. [From Japan., I'm (a) Japanese., 《比較的まれ》 I *come from* Japan.]" 「ご出身はどちらですか[どちらからおいでですか]」「日本です」 (≒ "Where are you from?" "(I'm from) Japan.") (! 疑問文は be 動詞を使った後者の方が普通; do を使った疑問文に答える場合でも I'm from ... や I'm + 国籍を示す 形名 などが用いられることが多い; ↓ 語法)/ "I'm not from Paris." "I don't care where you *come from*." 「私はパリの出ではありません」「君の出所など気にしてない」/*come from* a musical [working-class] background 音楽家一家[労働者階級]の出である.

> 語法 (1) 地名と国名を両方示して答える場合は (I'm from) Yokohama in Japan [Yokohama, Japan]. (日本の横浜です)などという.
> (2) 具体的な国名を聞く場合は What country do you come from?, 明確に国籍を聞く場合は What nationality are you?, What is your nationality?, 出生地を聞く場合は Where were you born? などを用いる.
> (3) Where did you come from? は出生地ということに限らず, その時点でどこから来たかを問う文 ▶"Where did you *come from*?" "From my own room." 「どこから来たの」「自分の部屋からさ」.

(2) 〈人が〉 Aから来る ▶Which station is he *coming from*? 彼はどこの駅から来ている途中ですか. (3) 〈産物が〉 A 〈物・場所〉からとれる, A の産[製品]である; 〈物・事が〉 A に起源[出所]がある; 〈態度などが〉 A からくる, 〈語が〉 A を語源とする, A に由来する (! 進行形にしない) ▶This milk *comes from* goats, not cows. この乳は牛ではなくヤギのものだ/He doesn't know where the money [story] *came from* originally. 彼はその金[話]のもともとの出所を知らない (! where 節でない場合は The money originally *came from* their own parents. (その金はもともと彼ら自身の両親からのものだ)のような語順が普通). (4) 〈音・音楽・声・においなどが〉 A 〈場所〉からしてくる ▶There's [I hear] a sound *coming from* the kitchen. 台所のほうから音がする/The voice was *coming from* directly overhead. 声はすぐ上から聞こえていた. (5) 〈情報・教訓などが〉 Aから得られる (! 進行形にしない) ▶Nutrition information *comes from* product labels. 栄養の情報は製品ラベルから得られる. (6) =COME of A (1).

- 生徒にとっては，come from A の意味として「…出身である」をまず思い浮かべるであろうが，教科書本文は主語が物(most of our information)であり，この文脈には合わないことを確かめさせる。成句義には，一緒に用いられることの多い主語に関する情報(選択制限)が山形かっこ〈 〉で示されているのでチェックさせ，〈情報・教訓などが〉 A から得られる」と記された(5)に導く。
- ! を使った注記には「進行形にしない」と説明されているのを確かめさせる。
- 辞書の用例をチェックさせ，教科書本文が「私たちの情報のほとんどはことばから得られる[来ている]」という意味になることを確認させる。

(3) means 名 **1**, p. 1195.

means** /miːnz/ [「中道 (mean³)」>「手段」]
— 名 (複 ～) Ⓒ **1** 〚単複両扱い〛《…の/…する》 手段, 方法 《*of*/*of doing*, *to* do》 (→way¹ 類義) ▶*means of* communication 伝達手段/There is [are] no *means of contacting* [*to* contact] Jennifer. ジェニファーに連絡をする手立てがない/Buses are an environmentally friendly ***means of transportation***. バスは環境に優しい交通機関だ/the *means of* production 〔経〕 生産手段.

- mean ではなく，means と s が付いた形で見出し語になっていることに注意させた上で，名のロゴに続いて示された複数形が(複～)となっていることから，単数形と複数形が同じであることをチェックさせる。教科書本文では an important means と不定冠詞の an が付いていることから，単数扱いであることを確認させ, 語義 **1** へ導く。
- 辞書の第 1 用例が教科書本文と同じなので参照させ，教科書のこの部分が「コミュニケーションの重要な手段，重要な伝達手段」という意味になることを確認させる。
- さらに，→を使って参照すべき部分を示した(→way¹ 類義)という参照指示に注意させる。way¹ (p. 2127)の 類義 コラムで類義語との違いをチェックさせて，教科書のこの部分では「言語がコミュニケーションを図るための媒介手段である」と言っているので means がふさわしいことを確かめさせる。

> 類義 **way と method, manner, means**
> way は何らかの目的を達成するための方法や手段を表す最も一般的な語. method は組織的･計画的な方法を表す. しばしば論理立てされた科学的な分析手法や計算方法に言及する際に好まれる. manner は《かたく》で，人の振る舞い方など，様態についてその様子を述べる際に好まれる. means は何か本来の目的を達成するための媒介的手段や方法を表す.

(4) look 名 **1a**, p. 1142.

— 名 (複 ～s /-s/) Ⓒ **1** 〚通例 a ～〛 **a** 《…を》 見ること; 《…への》 一見, 一瞥(ᵇᵉᵗˢᵘ); 注視 《*at*》 ▶***take*** 《主に米》 [***have*** 《主に英》] ***a look at*** A Aを見る (→take 他 **3 a** 語法)/squint for [to get] ***a closer*** [better] ***look at*** the detail 細部をもっとよく見ようと目を細める/give a quick *look* to Jim ジムにすばやく一瞥(ᵢᶜʰⁱᵇᵉᵗˢᵘ)を投げかける (↑ 成句 look to A (1))/shoot [throw, cast] him *a look* ≒shoot [throw, cast] *a look at* him 彼をちらっと見る/take ⌞*a* second [one last] *look* もう1度[最後に一目]見る/sneak *a look at* her diary 彼女の日記をのぞき見する/take [have] ***a*** quick ***look around*** [《英》 ***round***] (the town) (町を)さっと見て回る.

- 第 1 用例が教科書本文と同じであることから語義 **1a** に導き，take a look at A は動詞の look を用いた look at A と同様に「A を見る」という意味であることを確かめさせる。
- 第 1 用例には《主に米》，《主に英》という地域差を示すラベルが付いていることに注意させ，主にアメリカ英語では take a look at …，イギリス英語では have a look at … が用いられることを確かめさせる。
- →を使って参照すべき部分を示した(→take他**3a** 語法)という参照指示に注意させる。take他**3a** (p. 1918)の 語法 には，同じ意味を表す動詞を使った表現と，動詞派生の名詞を使った表現(教科書のこの部分では look at … と take a look at …)との違いが説明されているのでチェックさせる。take他**3a** の第 1 用例は教科書本文と同じ look を使っているので確かめさせる。

【する】 **3 a** 〚**take an A**〛 A〈1つの行為〉をする (**I** (1) Aは主に動詞派生の 名 で強勢を受ける; have にも同様の用法がある; ↓ 語法 コーパスの窓. (2) Aを主語にした受け身が可能) ▶*Take a* close(r) [good] look at the facts. 事実を(より)綿密に[よく]見てみなさい/I haven't *taken a* breath of fresh air for a long time. 新鮮な空気は長いこと吸っていない/They're *taking a* larger step forward on the problem. 彼らはその問題に関していっそう大きな一歩を踏み出しつつある/I haven't *taken a* vacation in five years. 5年ほど休暇をとっていない.

> 語法 **1語の動詞との相違** 1語の動詞と違って1回限りの完結した行為を表し, よりくだけた言い方. また, take [have] an Aはその行為を楽しむことを暗示するので, 楽しむことが不可能な文脈では通例用いない ▶drink some poison 毒を飲む (×take [have] a drink of poison).
> さらに, 前に修飾語を伴って表現を豊かにするだけでなく, 動詞句部分を長くして文体を整えるのに貢献することも多い ▶*take* a brisk [country, guided] walk きびきびと[田舎道を, 案内してもらって]歩く/*take* a long [little] walk 長い距離を[少し]歩く.
> なお同様の用法は →give 他 **8 b**, make 他 **7**.

- さらに take他**3a** にはコーパスの窓というコラムがあるので，余裕があれば参照させたい。コラムを読ませることで，動詞派生の名詞を使った「take [have] a+名」という表現の英米差についての情報や，この文型で使われる他の名詞についての知識も得られ，理解が深まることが期待される。『ウィズダム英和辞典』はコーパスを用いて編纂されており，コーパスの窓では実際に使われている英語の実態が解説されている点に触れておくのもよい。

> コーパスの窓 **take a +名 と have a +名**
> 一般に take は《米》で, have は《英》で好まれる傾向があるが, 名 によって take と have のどちらかのみしか用いられないものや一方が優勢なものもある. 他方, have と take がほとんど同じように用いられる 名 もある.
> **(1) 《米》《英》の差があるもの** ▶take 《主に米》 [have 《主に英》] a look 見る/take [have] a walk 散歩する (**I** take は《米》で好まれ《英》では《かたく》響く; 《主に英》では go for a walk の方が好まれる).
> **(2) take/have のいずれかに偏りのあるもの** ▶take [have] a break ひと休みする (**I** 《米》《英》共に take が優勢)/have [《主に米》 take] a drink 飲む (**I** 《米》《英》共に have の方が優勢).
> **(3) take/have をほぼ同じように用いるもの** ▶take [have] a seat 座る/take [have] a ride 乗る (**I** go for a ride の方が優勢).

(5) left[1] 名 **1a**, p. 1097.

―― 名 (複 ～s /-ts/) (↔right) **1 a** Ⓤ 〖通例 the/one's ～〗左, 左側, 左手;〔劇〕上手 ▶You'll see the sea ***on the*** [***your***] ***left***. 左手に海が見えます/The bride's family was seated ***to the left of*** the aisle. 新婦の家族は通路の左側に座っていました/turn to ***the left*** 左を向く; 左へ曲がる/***Keep to the left***.《掲示》左側通行/The third man from ***the left*** is my brother. 左から3人目が私の弟です/from upper ***left*** to lower right 左上から右下に.

- 辞書の第1用例が教科書本文と同じである語義 **1a** に導く。用例が太字で示されていることから，この形がよく用いられるコロケーションであることに注意させる。
- 〖通例 the/one's ～〗という用法指示から，普通は the もしくは代名詞所有格と共に用いられることを確かめさせる。辞書の第 1 用例では，角かっこ[ ]を使って the は your に書き換え可能であることが示されているので確認させる。on the left, on one's left のどちらの形も頻出する句として覚えさせたい。

Crown English Communication I, p. 6.

—2

Pictograms are often used in (1)public places. Why do people use pictograms instead of words (2)such as “emergency exit,” “restroom,” or “escalator”? Aren’t words better than pictograms?

Pictograms are used for at (3)least two reasons. First, you can usually guess their meanings just by looking at them. However, you cannot understand words if you don’t know the language. For this

Lesson 1－Section 2

(1) public 形 **2**, p. 1517.

pub·lic /pʌ́blɪk/［語源は「人民 (people)」］((名) publicity)
―― 形 (比較なし/**5** は **more ～; most ～**)
1 [[名 の前で]] 民衆の，大衆の，庶民の ▶American *public* opinion アメリカの世論/win *public* support 民衆の支持を得る/a *public* outcry 民衆の激しい抗議.
2 [[名 の前で]] 公の，公衆の，公共の; 公立の ▶a *public* library 公立図書館/Don't smoke in *public* places. 公共の場所ではタバコを吸ってはいけない.

- 辞書の第２用例が教科書本文と同じであることから語義 **2** に導く。用例と訳を確かめさせ，教科書のこの部分が「ピクトグラムはしばしば公共の場で使われる」という意味になることを確かめさせる。
- 形のロゴに続いて(比較なし)と記されていることをチェックさせ，比較変化をしない形容詞であることを確認させる。また語義番号に続いて，限定用法であることを示す[[名の前で]]という用法指示があることにも注意させる。意味だけでなく，文法情報も確かめる習慣を付けさせたい。

(2) such 成句 **such as**, p. 1884.

súch as (1) たとえば (→for EXAMPLE 読解のポイント) ▶some factors(,) *such as* sex, age and income いくらかの要因，たとえば性別，年齢，収入など (❗and の代わりに or も用いられる)/"I've got bigger problems." "*Such as*?" 「もっと大きな問題があるんだ」「たとえば?」. (2)[[主格・目的格の関係代名詞として]] …のような… (→I[1] **1** 文法, me[1] **1** 文法) ▶a blue sky *such as* I had never seen それまで見たこともなかったような青空.

- 重要成句であることを示すアステリスク(*)が付いているのでチェックさせる。
- 教科書本文では such as "emergency exit," "restroom," or "escalator"と or が用いられていることを確認させる。成句義(1)の第１用例では and が用いられているので比較させて，用例訳に続く(❗and の代わりに or も用いられる)という注記を確かめさせる。
- 成句義に続く(→for EXAMPLE 読解のポイント)という参照指示に注意させる。参照先はスモールキャピタルで示された見出し語 example にある読解のポイントというコラム(p. 655)であることを確認し，参照させる。入試の読解問題対策や英作文に役立つ解説があるのでぜひ確認させておきたい。コラムの第２用例は such as を使ったものなのでチェックさせる。

読解のポイント 例示の表現
(1) 例示の表現の後ろには，直前の内容の具体例が述べられる．同様の機能を持つ表現に，for INSTANCE, including, SUCH as, like[2] 前 **2**, say 他 **6** などの表現や，コロン(:)，ダッシュ(—)などがある ▶Many species of animals have communication systems. The great apes, *for example*, communicate with facial expressions. 多くの動物種が意思伝達システムを持つ．たとえば，大型類人猿は顔の表情によって意思伝達を行う (❗the great apes は many species of animals の１例)/Most communities are divided into social groupings, *such as* family, neighborhood, and occupation. ほとんどの共同体が，家族・地域・職業といった社会集団に分けられる (❗such as の後に social groupings の例がある)/He can read more than ten languages, *including* English, French, German, Chinese, and Japanese. 彼は10以上の言語が読める．たとえば英語，フランス語，ドイツ語，中国語，日本語などだ (❗including の後に ten languages の例がある).
(2) 論説文では抽象的な内容から具体的な内容への展開が原則のため，例示の表現なしで例を述べることも多い ▶Newspaper stories have certain purposes. They communicate and judge information about recent events. 新聞記事には特定の目的がある．(すなわち，) 最近起きた出来事に関する情報を伝え，評価する (❗certain purposes の具体的内容が直後の文で述べられている).

(3) least 副 成句 **at least**, p. 1094.

at léast (1) (数量が)少なくとも，少なく見ても，最低でも (not less than) (↔at (the) most) (❗(1) 数量表現の前後で．(2) at the (very) least の形をとり「たぶんそれよりずっと多い」ことを強調することがある) ▶*at least* once a week ≒once a week *at least* 少なくとも週１回は (❗後置の方が強意的)．(2) = at (the (very)) LEAST (1). (3)[[制限]] (マイナス要因が多い中で最低限のプラス要因を述べて)とにかく (in any case), せめてものとりえは (❗通例文頭で) ▶He was defeated in the end, *but at least* he was satisfied with the result. 彼は結局負けてしまったが，ともかく結果には満足だった．(4) = at (the (very)) LEAST (2).

- 重要成句であることを示すアステリスク(*)が付いているのでチェックさせる。(2)の成句 such as にもアステリスクが付いているので，続けて同じ作業をさせると知識の定着が期待できる。
- 教科書本文では，at least の後に two reasons という数量表現が続いていることから成句義(1)に導く。
- 辞書の用例を参照させ，at least は後置される場合もあること，またその場合には(❗後置の方が強意的)の注記のように意味が強まることを確かめさせる。

Crown English Communication I, p. 7.

reason, pictograms are used at international airports.

Second, you can quickly (1)recognize pictograms even if they are far away because of their simple design and bright colors. For this reason, they are used on (2)roads.

Take a look at these road signs:

These are not used in Japan, but you can easily guess their meanings: “Drawbridge (3)ahead,” “Watch out for kangaroos,” and “Roundabout ahead.”

(1) recognize 動他 **1**, p. 1568.

rec·og·nize**, 《英》 **-nise** /rékəgnàɪz/ (❗強勢は第1音節)
[re (再び) cognize (知る)] ((名) recognition)
—— 動 (**~s** /-ɪz/; **~d** /-d/; **-nizing**)
—— 他 **1** 〈人が〉 «…により/…だと» 〈(覚えのある)人・物・事〉 **がわかる**, …を認識[判別, 識別]する «*from, by/as*» (❗(1) (考えたり新しい情報のおかげで) 突然事実や意味に気づくの意の realize と違い, 以前の経験・覚えなどからそれだとわかること; 日常英語では代わりに know (that) it is… などを用いることが多い. (2) 進行形にしない) ▶He *recognized* her voice at once. 彼はすぐ彼女の声だとわかった/I *recognized* his wife *from* her photo. 写真を見ていたので彼の奥さんだとわかった.

- 教科書本文がピクトグラムの使われる理由を説明している部分であることから, can quickly recognize pictograms が「ピクトグラムをすぐ[容易]に認識できる」という意味になる語義 **1** に導く。
- 山形かっこ〈 〉で示されている目的語の特徴(選択制限)が,「〈(覚えのある)人・物・事〉」となっているのをチェックさせる。教科書本文の目的語である pictograms は, 日常生活で見覚えのあるものが記号化されているので「見ればすぐにわかる」と言っていることを理解させる。
- ❗を使った注記で,「(考えたり新しい情報のおかげで)突然事実や意味に気づくの意の realize と違い, 以前の経験・覚えなどからそれだとわかること」と類語との違いが説明されているので参照させる。realize だけでなく「…がわかる」と訳すことのできる動詞(see, understand, know など)はほかにもあるので, 訳語以外の意味合いの違いの説明にも注意させるようにしたい。

(2) road 名 **1**, p. 1625.

road** /roʊd/ (❗-oa- は /oʊ/; rode, rowed と同音) [語源は「馬による旅」]
—— 名 (複 **~s** /-dz/) **1** Ⓒ (車などが通れる) **道路**, **道**; [[形容詞的に]] **道路の** (❗road が道路一般を表すのに対し, street は町中の建物が立ち並ぶ道, avenue は比較的広い街路, highway は都市間の幹線道路をさす) ▶walk ***along*** [across] ***the road*** 道路を歩く[歩いて渡る]/Jeff lives just ***down*** [***up***] ***the road***. ジェフはこの道を少し行った所に住んでいる/build *roads* 道を作る/*road* accidents 交通事故.

表現 **さまざまな道** ▶a busy [an empty] ~ 混雑した[空いた]道/a bumpy [slippery, winding] ~ でこぼこした[滑りやすい, 曲がりくねった]道/a country [rural] ~ 田舎道/a dirt [paved] ~ 未舗装の[舗装した]道/a narrow [wide] ~ 幅の狭い[広い]道.

- 訳語を調べなくてもわかる場合, 生徒は辞書を引こうとしないので, 訳語以外にもさまざまな情報が英和辞典に載っていることを教えたい。まず, 見出し語・発音記号の横に(❗-oa-は/oʊ/; rode, rowed と同音)という発音注記があるのでチェックさせる。「ロード」というカタカナ語からの類推で発音しがちなので注意させる。
- 語義に続く❗を使った注記に,「道・路」を表す類語との違いが説明されているので確認させ, road が道路一般を指す語であることを確認させる。
- 基本語として発信活動に生かせるよう, 表現コラムにあるコロケーションをチェックさせる。
- 教科書本文の次行(15 行目)に複合語の road sign があるので, 見出し語の最後にある, ♦に続く分離複合語の箇所を参照させる。分離複合語では見出し語がスワングダッシュ(~)で省略されていることに注意させ, 意味を確認させる。

♦**~ àgent** 《米》追いはぎ《昔, 米西部で駅馬車を襲撃した》. **~ còmpany** 《米》旅芸人(の一座). **~ gàme** 〖スポーツ〗ロードゲーム, 遠征試合. **~ hòg** 《くだけて》(交通マナーを無視するなど)乱暴な運転手. **~ mànager** (ミュージシャンなどの)ツアーマネージャー. **~ màp** (1) 道路地図. (2) (目標実現までの道筋を示す)指針, 行程. **~ prìcing** 《英》ロードプライシング《特定の道路の混雑時などに運転手から通行料を徴収する制度》. **~ ràge** (交通渋滞・他者の運転などによる)ドライバーの激怒[暴行]. **~ ròller** (地ならし用)ローラー車. **~ sàfety** 交通安全. **~ sàfety campáign** 交通安全運動. **~ sènse** (運転手・歩行者などの)道路感覚, 交通意識. **~ sìgn** 交通標識. **~ tàx** 《英》道路税《車の所有者が払う》. **~ tèst** (車の)路上性能テスト. **~ trìp** 《米俗》(友人などとの)車での長旅. **~ wàrrior** 《俗》(1) 外出先でコンピュータ[通信機器]を使う人. (2) 仕事で各地を回る人.

(3) ahead 副 **1**, p. 47.

a·head** /əhéd/ [a (…の方向へ) head (頭)]

—— 副 (比較なし) (↔behind) **1** [[位置]] **前方に[へ]**, 行く手に; 先頭に立って; [[名 の後で]] (すぐ)目の前の ▶Let him go *ahead*. 彼に先に[先頭を]行ってもらおう/Look ***straight ahead***. しっかり前を見なさい/We saw a huge explosion up [a few miles] *ahead*. 我々は行く手[数マイル先]に大爆発を目にした/The road *ahead* was quite dim. 道の行く手はかなり薄暗かった.

- 副のロゴから品詞が副詞であることに注意させる。前置詞のように名詞に先行する形で使う場合は成句の ahead of A を使うことを確認させる。

ahéad of A* (1) (位置・方向を表して) A〈人・物〉の前に[へ]; [[名 の後で]] Aの前の ▶I walked *ahead of* [in front of] Bob. 私はボブの前を歩いた (ahead of が両者が同じ方向へ歩いていることを表すのに対し, in front of は静止しているボブの目の前を私が歩いたことも示す)/a park just *ahead of* my house 私の家の目と鼻の先にある公園. (2) (時間的に) A〈人・事・時刻〉より先[前]に, 早く ▶finish supper *ahead of* others 人より先に夕食を終える/We arrived well [far] ***ahead of time*** [***schedule***]. 私たちは予定よりずいぶん早く到着した. (3) A〈人〉の未来に ▶We have a rosy future *ahead of* us. 我々にはバラ色の未来が待っている. (4) (人・考えなどが) A〈人・時代など〉より優れて, 進んで ▶They are a little *ahead of* us in market research. 市場調査においては我々より彼らに一日の長がある.

- 副のロゴに続いて「(比較なし)(⇔behind)」と記されているのを確かめさせる。それぞれ「比較変化はしない」こと,「反意語は behind である」ということを確認させる。
- 教科書本文では「道路標識」の話をしていることから,「位置」を表す語義 **1** に導く。「前方に…があるので注意せよ」という意味の標識であることを確かめさせる。

Crown English Communication I, p. 8.

—3

People from different cultures can usually understand pictograms easily. But (1)sometimes they find pictograms confusing. Look at this pictogram:

It tells different people different things. Maybe this man is (2)clearing a landslide. Maybe he is opening an umbrella on a windy day. Actually, this man is working on a road. This is a pictogram for "Roadwork ahead."

You can usually get the message from a pictogram as soon as you see it. But sometimes you have to learn the meaning of a pictogram, just like you learn the words of a foreign language.

Pictograms may never take the (3)place of words, but they are already an important means of

Lesson 1－Section 3

(1) sometimes 副, pp. 1803–04.

some·times /sʌ́mtàɪmz/ [語尾の -s は 副 を作る接尾辞; →always 語源]

—— 副 (比較なし) [文修飾] 時々, 時たま(…する), 時には(…なことがある), 時折, 時として (1) often, frequently, occasionally とは異なり very で修飾できないが only, how での修飾は可能. (2) 進行形で用いるのは《まれ》) ▶New York is *sometimes* called the Big Apple. ニューヨークは時としてビッグアップルと呼ばれる/*Sometimes* when I remember that day, I feel very sad. 時々その日のことを思い出すと, とても悲しくなる/Drugs *sometimes* have serious side effects. 薬は時に重大な副作用をもたらすことがある (≒ Some drugs have ...)/ Tests *sometimes* don't [×don't sometimes] reveal an infection. 検査で感染がわからないこともある (↓ 類義).

> **類義 sometimes と occasionally**
> sometimes は約 50%の頻度で,「ときどき…する」という肯定的な含みがあるが, occasionally はそれより低く 30〜40%程度なので, seldom, rarely ほどではないが「たまにしか…しない」という否定的な含みがあり, 通例否定文では用いない. sometimes は否定文でも用いるが, always や often と違って否定語の前に置き, 直後では用いない (↑ 第 4 例; → always 1 語法 (2)).

> **語法** (1) 文頭・文中・文尾のいずれでも用いられる ▶ *Sometimes* they ride horses. ≒ They *sometimes* ride horses. ≒ They ride horses *sometimes*. 彼らは時々馬に乗る (! 文中の場合, 通例一般動詞の前, be 動詞・最初の 助 の直後に置き, 動 と目的語の間に用いることはできない: ×They ride sometimes horses.).
> (2) 文中で呼応させて用いる場合がある ▶*Sometimes* he writes from Tokyo, and *sometimes* from Osaka. 彼は時には東京から, 時には大阪から手紙をよこす (! この用法は frequently にはないが often, occasionally でも可能; なお (at) other times との呼応は sometimes のみ可能: *Sometimes* [×Often, ×Frequently, ×Occasionally] he's very noisy, and *(at) other times* he's really quiet. 彼はひどくうるさいこともあるが, 実に静かなこともある).

- sometimes の用法の確認と同時に, 頻度副詞についても調べさせたい。教科書本文が文頭(主語の前)で sometimes を用いていることを確かめさせ, 辞書の第 1 用例, 第 2 用例と比較させる。語法の(1)を参照させ, 文頭・文中・文尾のいずれでも用いることを確認させる。さらに文中での位置を!の注記で確かめさせる。
- 類義もあるのでチェックさせる。特に解説冒頭の「sometimes は約 50%の頻度」という説明に注意させて, コラムの最後にある参照指示(→always1語法(2))に従って該当箇所(p. 65)を参照させる。(2)(a)に教科書本文 1, 9 行目の usually, 13 行目の never を含め, 頻度を表す副詞が頻度の高い順にリストされているので確認させる。

> **語法** (1) always の位置 (a) 平叙文 通例一般動詞の前, be 動詞・最初の 助 の直後に置く. ただし be 動詞・助 に強勢がある場合はその前に置かれる. コーパス なお, 実際には文尾での使用例も見られるが, 避けた方が無難 ▶"Be careful." "I *always* ám." 「気をつけてね」「いつだって気をつけているよ」(! 相手の思いこみに反論している).
> (b) 命令文 命令文では文頭に来る (↑ 第 3 例).
> (2) 頻度の副詞 (a) 頻度の程度 頻度の高い順に並べると次のようになる: always ⇒almost always (ほぼいつも) ⇒usually, generally (たいてい) ⇒frequently, often, regularly (よく) ⇒sometimes, not always (ときどき) ⇒occasionally, now and then (折にふれて) ⇒hardly [scarcely] ever (ほとんど…ない) ⇒rarely, seldom (めったに…ない) ⇒never, not ever (一度も…ない).
> (b) 時制 頻度の副詞は習慣的な行為や状況がだいたい何回繰り返されるかを示すので, 典型的には進行形を用いず, 単純現在[過去]形や現在完了形とともに用いられる傾向がある. 進行形と用いられる場合は, ↓3 を参照.
> (3) 頻度を尋ねる疑問文 頻度を尋ねる場合は, How often ...?(→often 成句) や How many times ...?(→time 成句) を用いる.

(2) clear 動他 **1a**, p. 348.

—— 動 (〜s /-z/; 〜ed /-d/; 〜ing /klíərɪŋ/)
—— 他 **1 a** 〈人が〉〈場所〉をきれいにする (*off*); 〈じゃまな物〉を片付ける; 【**clear A of B/B off [from] A**】 A 〈場所〉から B 〈物・人〉を取り除く, 排除する (! コーパス 時に clear A out of [off of] Bの形も用いられる) ▶*clear* the table (食事の後で)食器類を下げる/*clear* some overtime work 残業を片付ける/*clear* the walk *of* snow ≒ *clear* snow *off* the walk 歩道の除雪をする/The police *cleared* the demonstrators *from* the street. 警察は道路からデモ隊を排除した.

- 教科書本文が is clearing a landslide と目的語の名詞(a landslide: 崩れた土砂)を伴った他動詞 clear の現在進行形であることを確かめさせる。
- 山形かっこ〈　〉で示されている目的語の特徴(選択制限)が〈じゃまな物〉と示されている語義 **1a** に導き，教科書本文が「崩れた土砂を片付けている」という意味になることを確認させる。

(3) place 成句 **take the place of A**, p. 1445.

tàke A's pláce = 《よりかたく》 ***tàke the pláce of A*** * 〈物・人が〉A 〈物・人〉に取って代わる, Aの代わりをする (replace) ▶No one can *take* his *place*. 誰にも彼の代わりは務まらない.

- 動詞と名詞の両方が含まれる成句の場合，通例は名詞の方に成句が立項されているので place の成句をチェックさせる。take A's place の形もあるため，成句見出しでは take A's place=take the place of A と併記されていることを確認させる。
- 成句見出しのところに《よりかたく》という，文体に関するレーベルが付いていることに注意させ，take A's place と take the place of A は言い換え可能だが，後者の方がよりかたい言い方であることを確認させる。

Crown English Communication I, p. 9.

communication. Some people are making full sentences and even telling stories with pictograms. A famous Chinese artist wrote the (1)following "sentence." Can you read it?

Will pictograms (2)eventually take the place of words? Will they be the language of the future? What do you think?

(1) following 形 **2**, p. 742.

fol·low·ing** /fɑ́(:)loʊɪŋ|fɔ́l-/ [→follow]

—— 形 (比較なし) ⟦名 の前で⟧ **1**⟦the ～⟧ 次の，後に続く (❗(1) 時を表す 名 の前で用いられるとしばしば副詞句として用いられる．(2) コーパス next は《話》《書》の割合がほぼ 1:1 だが，following は約 1:3 となる; ↔previous) ▶*the following* year [day, week, month] 翌年[日，週，月]/We woke *the following* afternoon. 我々は翌日の午後に目がさめた/on *the following* pages 以下のページに．
2⟦the ～⟧ 次に述べる，下記の (↔preceding) ▶*the following* example [way] 下記の例[方法]/Answer *the following* questions. 以下の質問に答えなさい．

- セクション 1 に出てきた following は名詞だったが，教科書のこの部分では定冠詞 the に後続し，名詞 sentence に先行していることから形容詞であることを確認させる。
- 形のロゴに続いて「(比較なし)⟦名の前で⟧」と記されていることから，比較変化をしない限定用法の形容詞であることを確かめさせる。
- 教科書本文ではすぐ下にピクトグラムを使った文が記されているので，「次に述べる，下記の」を表す語義 **2** に導く。語義番号に続く⟦the ～⟧という用法指示に注意させ，この意味では the と共に用いられることを確かめさせる。

(2) eventually 副, p. 648.

e·ven·tu·al·ly** /ɪvén(t)ʃu(ə)li/ [→event] ((形) eventual)

—— 副 (比較なし) ⟦結末⟧ (一連の出来事について) 結局，ついに; (将来の状況について) 最後には，ゆくゆく(は) (❗否定文には用いない; 順番が「最後に」の意味では finally を用いる) ▶*Eventually*, I managed to persuade him to give up the plan. 結局なんとか説得して彼にその計画をあきらめさせた/"Did he come?" "*Eventually*, yes." 「彼は来たの?」「ええ，結局ね」/The drug will *eventually* be available to anyone. ゆくゆくはその薬は誰でも入手できるようになるだろう．

> **類義** eventually と finally, at last
> (1) いろいろな事が起こった末の結末を述べるが，そこに至るまでの過程の困難さなどを表す場合は finally を用いる．
> (2) 話し手のいらだちや安堵(あんと)などの感情を伝える場合は，at last が好まれる．

- 語義だけでなく，⟦結末⟧という意味機能表示や，それに続く（　）で示した補足説明にも注意させた上で，教科書本文が「ピクトグラムはゆくゆくはことばに取って代わるだろうか」という意味になることを確認させる。
- ❗の注記にある「順番が『最後に』という意味では finally を用いる」という説明や，類義をチェックさせる。「結局，最後に」と訳すことのできる finally, at last との違いを確認させる。